

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目 次

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容	・・・・・・・・	1 頁
イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性	・・・・・・・・	1 頁
ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	・・・・・・・・	3 頁
【資 料】	・・・・・・・・	9 頁

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

令和3年4月、文学部国際文化学科を発展的に改組し、新たに収容定員を増加して国際学部国際文化学科を開設することを計画している。具体的には国際学部国際文化学科とその母体となる文学部国際文化学科の定員を下記の表のとおり変更する。

学科名	現行：令和2年度		変更後：令和3年度		定員増減	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
文学部 国際文化学科	90名	360名	0名	0名	-90名	-360名
国際学部 国際文化学科			100名	400名	+100名	+400名
大学総体	758名	3,032名	768名	3,072名	+10名	+40名

*文学部国際文化学科は令和3年4月に学生募集停止

イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

<文学部国際文化学科の沿革>

大谷大学は、寛文5（1665）年に東本願寺の寺内に創設された研究教育機関としての「学寮」をその淵源とし、爾来350年の伝統の中で、仏教精神に基づいた人間教育を行い、深く自己を洞察しつつ現代社会を主体的に生きることのできる人物を育成してきた。

文学部国際文化学科は、急激に進展する「国際化」の潮流の中にあって、異なる文化的背景を持つあらゆる人々と手を携え、共同して社会を創造していくことができる人物を育成することを目的に、建学の理念を実現する文学部6番目の学科として平成5年4月に開設した。その教育研究目的に則り、アジア、ヨーロッパ、アメリカの諸地域を対象とする地域文化研究、比較文化的手法を発展させた異文化・自文化理解、外国語運用能力をも含めたコミュニケーション力を核とした国際文化教育を実践し、広い視野と柔軟な発想力をもって、自己の内面を見つめつつ世界中の人々と主体的に交流できる真の国際人を輩出するために教育研究に取り組んできた。

<学部改組への取り組みと定員未充足学科の定員整理>

本学では、これまでの歴史的経緯を踏まえ、近年の社会的要請に鑑み、平成24年度からの10年間の大学の行動方針をまとめた「大谷大学・大谷大学大学院・大谷大学短期大学部

グランドデザイン」を策定した。その第2期計画（平成27年度-平成29年度）では、大学教育の質的転換が問われるなか、学位課程ごとの教育の充実・強化をはかるため、100年をこえて文学部だけの単科大学として歩んできた本学の伝統を止揚し、平成30年4月に新たに社会学部・教育学部を開設した。その結果、令和2年現在の本学の学部学科構成は、文学部6学科（真宗学科、仏教学科、哲学科、歴史学科、文学科、国際文化学科）、社会学部2学科（現代社会学科、コミュニティデザイン学科）、教育学部1学科（教育学科）の3学部9学科となった。この新学部の設置にあたっては、改組母体となる学科の定員とともに、18歳人口の減少などを背景に入学定員が充足できていない学科の定員を適正規模に整理し、その削減した定員を吸収することとした。文学部国際文化学科の入学定員充足率は、平成24年度「0.85」、平成26・27（2015）年度「0.94」、平成28年度「0.79」と入学定員未充足の状況が続いていたため、平成30年度の学部改組の際に100名の入学定員を10名削減し90名とした（資料2）。

＜学部改組による志願者の急増と収容定員増の必要性＞

クランドデザインによる様々な改編や平成30年度の改組とその計画の事前告知は、本学の認知度を高める効果を生み、大学全体の志願者は、平成28年度3,002名から平成29年度には3,236名へ増加。以後平成30年度 6,503名（対29年度比 2.01倍）、令和元年度 7,217名（対29年度比 2.23倍）、令和2年度 7,106名（対29年度比 2.20倍）と3年連続して平成29年度実績を倍増する志願者を集めている。志願者の増加は、新設学部において増加したのみならず、履修コースを刷新したことなどにより、文学部においても大きく増加している。文学部国際文化学科の志願者数は、平成29年度378名、平成30年度877名（対29年度比 2.32倍）、令和元年度814名（対29年度比 2.15倍）、令和2年度743名（対29年度比 1.97倍）と平成29年度実績の約2倍の志願者を3年連続で集めている（資料3）。しかしこのことは、本学に大学教育の質的向上に取り組む活動に活気を生んだ反面、志願倍率の急激な上昇、特に一般入試において前年度との差が大きくなり受験生に混乱を引きおこした。急激な変化を緩和するため、他の入試制度から若干名の募集定員を移行させ一定の改善を行なったが、入学定員を10名削減していることから、多くの募集定員を振り分けることができず改善が図れない入試制度も残った状態となっている（資料4）。

このように、平成30年度以降、継続して志願者を増やしている文学部国際文化学科の現状および、今回、発展的改組により新学部を開設することに鑑み、国際学部国際文化学科の各定員を、文学部国際文化学科の削減する前の入学定員100名・収容定員400名とし、大学の入学定員10名・収容定員40名を増員し、入学定員の厳格化を推進しつつ一般入試の急激な変化を緩和するとともに、社会的な要請に積極的に応えていくことを企図する。

(ア) 教育課程等の変更内容

今回の学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程変更の要点は、グローバル社会の現実に触れ、体験と実践から学ぶことを取り入れた教育を展開するために、2年次学生を対象とする実践系必修科目群として「実践研究 B」を設定したことである。それ以外の点で大きな変更はなく、コース編成についても1年次の共通コースの後、2年次以降は英語コミュニケーションコース、欧米文化コース、アジア文化コースに分かれる3コース制を堅持する。まずは、大枠として維持される3コース制について述べた後、変更のポイントとなる「実践研究 B」について述べる。

現行（平成30年度の学部改組以降）の教育課程では、1年次で4クラスに分けられてクラス担任教員の指導のもとで各学年必修科目の「国際文化演習」を初めとする必修科目を履修し、2年次以降は学生の関心に応じて、英語コミュニケーションコース（1クラス）、欧米文化コース（4クラス）、アジア文化コース（2クラス）の3コース（計7クラス）に分かれて所属する。1年次の「国際文化演習 I」は定員増によって1クラスが約23名から約25名に増加するが、依然として少人数クラスといえる規模に留まる。また、2年次以降の状況について述べると、英語コミュニケーションコースは当初より定員を1学年あたり約20名以下と定め、希望者多数の場合は選考を行ってきたため、収容定員増の直接的な影響はなく、定員増の10名は欧米文化コースとアジア文化コースに所属することとなる。欧米文化コースは4クラス、アジア文化コースは2クラスで構成されるため、定員10名増は1クラスあたり平均2名程度の増加となるが、それでも1クラスの人数は平均14～15名程度に留まり、少人数制クラス・ゼミとして指導を行うのに何ら支障のない規模である。

次に、教育課程変更の要といえる「実践研究 B」について説明する。学科の教育課程には以前から「実践研究」が設けられAとBに区分されていたが、これをA、B、Cの3区分に改編することで、実践系科目を集めた「実践研究 B」が、体験と実践から学ぶ教育方針に対応する科目区分となった。「実践研究 B」には、「English Workshop」と「English Workshop & Camp」に加えて、新規開講の「実践文化演習」が含まれる。「実践文化演習」は、新規開講の実践系科目と従来の全学開講科目を学科科目として再編したものである。新規開講科目としては、京都市内でのフィールドラーニングを行う「実践文化演習 a」、ネイティブ教員による初修外国語集中科目「実践文化演習 b, c, d, e」（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語）があり、従来の全学開講科目である「カナダ語学研修」、「中国語学研修 1」、「中国語学研修 2」、「韓国語学研修」、「ヨーロッパ文化研修」、「インド文化研修」、「中国文化研修」は、「実践文化演習 f, g, h, i, j, k, l」にそれぞれ再編されている。

英語コミュニケーションコースについては学則変更前と変わりなく、「実践研究 B」に含まれる「English Workshop」、「English Workshop & Camp」、「実践文化演習 f」（カナダ研修）をすべて履修するように指導する。欧米文化コース、アジア文化コースにつ

いては、新たに「実践研究 B」から 2 単位を履修することとしたため、実践英語に関心のある学生は「English Workshop」等を履修して要件を満たすこともできるし、あるいは上記「実践文化演習」（フィールドラーニング、語学集中、海外研修）のいずれかを選択することもできる。英語コミュニケーションコースは学年定員が 20 名以下なので、欧米文化コースとアジア文化コースを合わせて約 80 名の 2 年次学生が「実践研究 B」の科目を必修として履修することとなる。受講人数の配分については、英語コミュニケーションコースの 20 名弱を除き、おおむね次のように見込んでいる。「English Workshop」に 5 名、フィールドラーニングに 20 名、語学集中（4 クラス）に 40 名、海外研修（7 つの渡航先）に 15 名で、計 80 名である。ただし、いずれの科目もワークショップやフィールドワークなど実践的演習型の授業であるため、特定科目の受講希望者が多数となった場合には選考や抽選によって人数を制限することで教育の質を担保できる。

以上のことから、収容定員変更による 10 名の定員増を実施しても、現行の 3 コース制に基づく教育課程において、全学年にわたり現在と同等の少人数教育を提供できると考えられる。学科の根幹となる各学年必修科目の「国際文化演習」や、実践的演習型の授業である「実践研究 B」の科目についても 1 クラス 25 名程度までの編成が可能だからである。なお、少人数教育を要するクラス編成は従来弾力的運用を旨としており、受講希望者数の偏向に際しては柔軟なクラス増減により少人数制を堅持し得てきた。それゆえ、収容定員変更前と比べても、10 名の定員増加による学生指導上の問題は想定されず、教育の質は十分確保されると考えられる。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

卒業要件及び履修方法は、英語コミュニケーションコースの場合、必修科目を含めて、「共通基礎科目」30 単位以上、「現代総合科目」12 単位以上、「学科専門科目」70 単位以上を修め、合計 124 単位以上を修得することとしている。欧米文化コースとアジア文化コースの場合、必修科目を含めて、「共通基礎科目」24 単位以上、「現代総合科目」12 単位以上、「学科専門科目」66 単位以上を修め、合計 124 単位以上を修得することとしている。ただし、前項(ア)記載の通り、コース別に分かれるのは 2 年次以降であるため、1 年次から全体のオリエンテーション、および各クラスの履修指導の際、英語コミュニケーションコース志望者に推奨される履修モデルを予め周知する。

履修指導に関しては、学生が自らの関心と方針に応じてコースを選択し、自らの目標を達成し得る体系的な履修計画を立てられるよう、初年次及び各年次に実施する履修ガイダンスに加えて、各年次必修科目の「国際文化演習」クラス担当者による指導教員制を運用し、オフィスアワーを中心として学生の個別面談を実施している。特に大学の制度に慣れていない初年次学生に対しては、「国際文化演習 I」の開講初期を履修指導に充て、併せて適宜面談を行うことで履修の方針と方法を周知徹底している。また、前項(ア)

記載の通り、「実践研究 B」の必修化によって 2 年次の履修選択が重要となるため、2 年次のコース決定後最初のオリエンテーションと「国際文化演習 II」の開講初期には「実践研究 B」の履修について特に丁寧な相談と指導を行う。なお、指導教員が担当する学生の履修・成績状況については教員職員共同の ICT システムによって情報が共有されており、問題の早期確認と、学科、教務課、学生支援課が連携して問題解決に向かえる体制が構築されている。

以上のように、教育方法及び履修指導方法に関しては、従前の方策において十分な体制を確保することができていると考えられるため、今回 10 名の定員増加のために別途施策を講ずる必要はなく、これまでの取り組みを真摯に継続することが学習支援体制の維持・向上のために不可欠であると考えられる。

(ウ) 教員組織の変更内容

開設年度となる令和 3 年度の配置数は、教授 5 名、准教授 5 名、講師 1 名、計 11 名による組織である。このうち講師 1 名は、平成 30 年度の学部改編時に、文学部文学科ドイツ文学コースを廃止し、国際文化学科の欧米コースに統合した際、移行期間にともない両学科にドイツ領域の学生が存在することから、臨時的にドイツ地域の専門教員を任期制教員として配置しているものである。文学部文学科ドイツ文学コースの最後の学年が令和 4 年度に卒業するため、この教員の任期は、令和 5 年度までとなっており、完成年度である令和 6 年度の配置数は、教授 5 名、准教授 5 名、計 10 名となる。完成年度においても教員数は大学設置基準の定める基準を満たしており、現況と同じ教育水準の質も確保されることが考えられる。専任教員は 1 名減となるが、文学部文学科のゼミ担当が不要となるためである。したがって、教員組織は変更を行わず現行の体制を維持することになる。

今回の学則変更にとまなう収容定員の増加によっても、授業時間数の増加等の負担増が生じることはなく、履修指導・学習支援が可能である。そのため教員組織の変更は行わないが、既述の方策によって変更前同等以上に教育の質が確保されるよう努めることとする。

(エ) 大学全体施設・設備の変更内容

国際学部の設置は、既存の文学部国際文化学科を発展的に改組し、入学定員 10 名、収容定員 40 名を増員して設置することを計画している。国際学部にかかる校地、運動場及び校舎等の施設については、以下に述べる通り大学設置基準を大幅に越える面積を有しており、文学部国際文化学科を含めた既存学部・学科に置いて整備している教室・演習室、教員研究室、研究室（自習室）等を利用し、既設の学部・学科及び併設の大谷大学

短期大学の教育課程・環境に支障をきたすことなく共同で使用する予定である。

校地、運動場及び校舎並びに図書館等の概要

本学の本部キャンパスの校地は 43,240.09 m² (大学設置基準・短期大学設置基準上、本学が必要とする校地面積=32,320.00 m²) で、京都市内の北部、京都市営地下鉄北大路駅徒歩 3 分の交通至便な位置に立地している。教育研究活動はすべて本部キャンパスにおいて実施している。

運動場、体育施設やセミナーハウスがある湖西キャンパスは滋賀県大津市に所在し、公共交通機関を用いて約 50 分の距離にある。本部キャンパスと湖西キャンパスを結ぶスクールバスを運行しており、主に課外活動やセミナーハウスでゼミ合宿を行う学生たちが利用している。運動場は、湖西キャンパスには 21,167.38 m² のグラウンドとサブグラウンドを有し、本部キャンパスには 2488.10 m² のグラウンドと 3 階建て延べ床面積 4,857.06 m² の体育館を有している。本部キャンパス内には、キャンパス各所に休息所とベンチが設けてあり、空き時間を利用して、学生同士、教員と学生が休息し対話をするスペースとなっている。また後述する新教室棟「慶聞館 (きょうもんかん)」には、学生達が休息のために自由に利用できるカフェを常設した学生ロビーのほか、サブゼミやミーティングに自由に使用できるアクティブ・ラーニングスペースを各階に配置し、目的に応じて利用できる開放的なスペースを確保している。また、既存建物の講堂棟には学内食堂やコンビニエンスストアを整備している。

本部キャンパスには、1 号館、2 号館、4 号館、5 号館、尋源館 (じんげんかん)、博綜館 (はくそうかん)、響流館 (こうるかん)、及び 2018 年 3 月に竣工した新教室棟「慶聞館」の 8 つの校舎を設置している。国際学部の校舎については、冒頭のとおり教育課程・環境に支障をきたすことなく共同で使用する予定であり、大学設置基準及び短期大学設置基準に規定される収容定員あたりの校舎面積「18,453.00 m²」に対して本学の校舎面積は「53,597.58 m²」となっていることから、十分な余裕をもって整備されている。

特に、新教室棟「慶聞館」には、多くの学生たちが集う広大な「学生ロビー」を設置し、正課授業以外で利用できるアクティブ・ラーニングスペースである「マルチスペース」やベンチ、ウッドデッキ等を建物屋内外の各所に設けており、学生・教職員の交流をはじめ、大学で実現する多様な学びを目的に応じて利用できる開放的なスペースを十分に確保している。慶聞館の 1 階中央部には、学生ロビーの周囲に学修支援施設 (学習支援室、語学学習支援室、文藝塾) と学生支援部事務室 (教務課、学生支援課、キャリアセンター) を配置している。この学生ロビーを学修活動の起点として、2 階～5 階の教室フロアに各フロア 3 ヶ所ずつ設けられたアクティブ・ラーニングスペースである「マルチスペース」や、4・5 階の教員の個人研究室へスムーズにアクセスできるように有機的に配置している。また、館内全体には無線 LAN も整備し、PCをはじめスマートフォンやタブレットなどさまざまなデバイスが接続できる環境を整備している。

各教室は、大・中規模の講義教室だけでなく、ゼミやグループワークに対応できる小規模教室を多く配置し、全教室にプロジェクタを完備している。さらに教室内に複数のプロジェクタを設置し、グループワークや遠隔地の状況を教室内に投影できる自由な学習空間の創出を可能とした高機能教室「セミナールーム」や「ディスカッションルーム」も設け、アクティブ・ラーニングの取組にも対応が可能となっている。また、新教室棟「慶聞館」4階と総合研究室、図書館・博物館等を配置する研究系施設「響流館（こうるかん）」を連結ブリッジにより接続したことで、教育・研究活動の接続性が向上している。こうした機能と配置により、学生たちの主体的な学びが可能となる（資料5）。

図書館は、文学部、社会学部、教育学部、国際学部及び大谷大学短期大学部との共用施設である。3,301 m²の閲覧室と 3,058 m²の書庫を有し、閲覧席は、図書館に 588 席、接続する総合研究室に 465 席ある。館内には、多目的利用が可能な各種閲覧室、検索端末、AV コーナー、自動貸出機、マイクロフィルムリーダー、コピー室など必要な機器・設備を備え、また障がいのある利用者の利用に対応できるよう各種バリアフリー機器を整備している。

蔵書については、本学及び本学短期大学部に設置する専門分野の図書資料を中心に、網羅的な蔵書構築を推進している。専門分野ごとの収書方針を立てるとともに、シラバス記載図書を整備するなど、教育研究に不足のない収書に配慮している。令和 2 年 3 月現在、図書資料の収蔵数は 873,727 冊、「西洋文学研究」、「英文学会会報」、*The Eastern Buddhist. New Series* など学術雑誌約 6,500 誌であり、その他、各種データベース、電子書籍、電子ジャーナル、視聴覚資料など各種メディア資料を整備している。また、国立国会図書館図書館向けデジタル化資料送信サービスに参加しており、対象資料の館内閲覧・複写が可能である。一部の図書は、各室の設置目的に合わせて総合研究室、短期大学部研究室、仏教教育センター、人権センター、教職支援センターにも配置されており、利用者の利便を図っている。現在、蔵書には、国際学関係図書約 6 万冊、他大学・専門研究機関等刊行の関連学術雑誌多数が含まれ、完成年度へ向けて関係資料を増加する計画である。

各種収蔵資料は、Web による検索システム「大谷大学図書館情報検索システム」の OPAC (Online Public Access Catalog オンライン蔵書目録) による検索が可能である。OPAC は学内外の Web 接続 PC より 24 時間検索が可能で、学内のみならず自宅等における研究・学習にも資するものである。なお、OPAC からは Web を介して国立情報学研究所の目録 DB や他大学・研究機関や国立国会図書館など各種図書館の情報検索システムにもアクセスすることができ、各種学術情報の取得も容易である。利用については、「大谷大学図書館情報検索システム」上の図書館情報管理機能によって、図書の貸出/返却をはじめとする一元的な図書館利用が可能である。利用者各人は Web 上にポータルサイトを持ち、自身の貸出情報等を確認することができる。古典籍資料の一部は、大学 HP「図

書館古典籍データベース（試行版）」にデータを蓄積し公開中であるが、大半の資料は冊子目録により検索可能である。また、電子ジャーナル、各種データベースなどのデジタル・コンテンツについては、図書館以外の学内施設（情報処理教室、各研究室、教員個人研究室等）からアクセス可能な利用環境を整備するなど、利用の便が図られている。

学外機関との協力体制については、私立大学図書館協会や日本図書館協会、佛教図書館協会等に加え、国立情報学研究所の目録所在情報サービスや大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）、オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）等に参加している。また、国内外の教育研究機関と ILL（Interlibrary Loan 図書館間相互貸借）を実施しており、大学図書館はじめ各種研究機関との間において、資料閲覧、現物貸借、文献複写が可能である。他機関所蔵資料の利用希望に際し、本学構成員は OPAC のポータルサイトを利用し Web 上で各種申請が可能である。

特記事項として、学生による図書購入費が予算化されており、学生が選書に積極的に関わることで図書（館）に親しみ、興味をもって学修に取り組める体制を整えている。また、閲覧カウンターでの日常的な対応のほかにも意見箱「館長直々」を設けて学生利用者の意見を聴取し掲示回答するなど、図書館運営に学生利用者の声が反映される仕組みを備えており、利用ニーズの変化に対応している。

以上のように、大学全体施設・設備は、新たに設置する国際学部を含め大学 4 学部及び短期大学部 1 学科（平成 31 年 4 月学生募集停止）で共同して利用しているが、校地・校舎面積とも設置基準を大きく上回る余裕のもとに整備されており、新たに収容定員を 40 名増員した場合においても十分に対応が可能である。特に新教室棟「慶聞館」や「響流館」をはじめとする諸施設と配置は、学生の学修活動を有機的に接続することを可能としており、国際学部のカリキュラムにおいて重視するグローバルな世界とローカルな地域社会を結びつける「グローカル」な視点に立ち、異文化という鏡で自文化を見直しながら、多様な文化の豊かさを人生の豊かさにつなげる方法を探究し、幅広い視野と柔軟な思考力を培い、国際コミュニケーション力を養うために学生が主体的に学ぶことが出来る新しい環境づくりに対応した学修環境を創出しており、新たに設置を計画する国際学部の教育研究活動を十分に展開することが可能であると考えられる。

添付資料 目次

	【インデックス番号】
資料 1 別記様式第 2 号（その 2 の 1）教育課程等の概要 〔国際学部国際文化学科〕	【①】
資料 2 文学部国際文化学科の入試状況の推移	【②】
資料 3 新学部設置前後の学部・学科ごとの志願者数と志願倍率の推移	【③】
資料 4 文学部国際文化学科 一般入試制度の志願者数等の推移	【④】
資料 5 新「慶聞館（きょうもんかん）パンフレット」（抜粋）	【⑤】

教育課程等の概要														
(国際学部 国際文化学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合科目	人間学Ⅰa	1前	2			○								兼2
	人間学Ⅰb	1後	2			○								兼2
	人間学Ⅱ	2・3・4前・後	2			○								兼19
大学導入	学びの発見	1前	2			○			1					
必修 外国語	外国語Ⅰ	英語Ⅰa	1前	1			○							兼4
		英語Ⅰb	1後	1			○							兼4
		ドイツ語Ⅰa	1前		2		○			1				
		ドイツ語Ⅰb	1後		2		○			1				
		フランス語Ⅰa	1前		2		○							兼1
		フランス語Ⅰb	1後		2		○							兼1
		中国語Ⅰa	1前		2		○			1				
		中国語Ⅰb	1後		2		○			1				
		韓国・朝鮮語Ⅰa	1前		2		○			1				兼1
	韓国・朝鮮語Ⅰb	1後		2		○			1				兼1	
	外国語Ⅱ	英語Ⅱa	2前	1			○							兼4
		英語Ⅱb	2後	1			○							兼4
		ドイツ語Ⅱa	2前		2		○				1			
		ドイツ語Ⅱb	2後		2		○				1			
		フランス語Ⅱa	2前		2		○							兼1
		フランス語Ⅱb	2後		2		○							兼1
		中国語Ⅱa	2前		2		○			1				
		中国語Ⅱb	2後		2		○			1				
韓国・朝鮮語Ⅱa		2前		2		○							兼2	
韓国・朝鮮語Ⅱb	2後		2		○							兼2		
共通基礎科目	選択外国語	英語読解（中級）1	1・2・3・4前		1			○						兼1
		英語読解（中級）2	1・2・3・4後		1			○						兼1
		英語読解（中級）3	1・2・3・4前		1			○						兼1
		英語読解（中級）4	1・2・3・4後		1			○						兼1
		英作文（中級）1	1・2・3・4前		1			○						兼1
		英作文（中級）2	1・2・3・4後		1			○						兼1
		英文法（中級）1	1・2・3・4前		1			○			1			
		英文法（中級）2	1・2・3・4後		1			○			1			
		英語のしくみと表現（中級）1	1・2・3・4前		1			○						兼1
		英語のしくみと表現（中級）2	1・2・3・4後		1			○						兼1
		英語会話（中級）1	1・2・3・4前		1			○						兼1
		英語会話（中級）2	1・2・3・4後		1			○						兼1
		英語会話（中級）3	1・2・3・4前		1			○						兼2
		英語会話（中級）4	1・2・3・4後		1			○						兼2
		英語会話（中級）5	1・2・3・4前		1			○						兼1
		英語会話（中級）6	1・2・3・4後		1			○						兼1
		英語読解（上級）1	1・2・3・4前		1			○			1			兼1
		英語読解（上級）2	1・2・3・4後		1			○			1			兼1
		英語読解（上級）3	1・2・3・4前		1			○						兼1
		英語読解（上級）4	1・2・3・4後		1			○						兼1
		英語会話（上級）1	1・2・3・4前		1			○						兼1
		英語会話（上級）2	1・2・3・4後		1			○						兼1
		英語会話（上級）3	1・2・3・4前		1			○						兼2
		英語会話（上級）4	1・2・3・4後		1			○						兼2
		英作文（上級）1	1・2・3・4前		1			○						兼3
		英作文（上級）2	1・2・3・4後		1			○						兼3
		英文法（上級）1	1・2・3・4前		1			○						兼1
		英文法（上級）2	1・2・3・4後		1			○						兼1
		インテンシブ英会話（中級）1	1・2・3・4前		4			○						兼3
		インテンシブ英会話（中級）2	1・2・3・4後		4			○						兼3
		ドイツ語読解（初級）1	1・2・3・4前		1			○						兼2
		ドイツ語読解（初級）2	1・2・3・4後		1			○						兼2

教 育 課 程 等 の 概 要

(国際学部 国際文化学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基礎科目	選択外国語	ドイツ語会話（初級）1		1				○								兼1
		ドイツ語会話（初級）2		1				○								兼1
		ドイツ語のしくみと表現（初級）1		1					○			1				
		ドイツ語のしくみと表現（初級）2		1					○			1				
		ドイツ語読解（中級）1		1					○		1					
		ドイツ語読解（中級）2		1					○		1					
		フランス語読解（初級）		1					○							兼1
		フランス語会話（初級）		1					○							兼1
		フランス語読解（中級）		1					○							兼1
		フランス語会話（中級）		1					○							兼1
		フランス語のしくみと表現（初級）		2					○							兼1
		フランス語のしくみと表現（中級）		1					○							兼1
		中国語読解（初級）1		1					○							兼1
		中国語読解（初級）2		1					○							兼1
		中国語会話（初級）1		1					○							兼1
		中国語会話（初級）2		1					○							兼1
		中国語会話（初級）3		1					○							兼1
		中国語会話（初級）4		1					○							兼1
		中国語のしくみと表現（初級）1		1					○							兼1
		中国語のしくみと表現（初級）2		1					○							兼1
		中国語会話（中級）1		1					○							兼1
		中国語会話（中級）2		1					○							兼1
		中国語会話（上級）1		1					○		1					
		中国語会話（上級）2		1					○		1					
		韓国・朝鮮語会話（初級）1		1					○							兼1
		韓国・朝鮮語会話（初級）2		1					○							兼1
		韓国・朝鮮語のしくみと表現（初級）1		1					○							兼1
		韓国・朝鮮語のしくみと表現（初級）2		1					○							兼1
		韓国・朝鮮語読解（中級）		1					○							兼1
		韓国・朝鮮語会話（中級）		1					○							兼1
		韓国・朝鮮語読解（上級）		1					○							兼1
		現代チベット語 a		1					○							兼1
		現代チベット語 b		1					○							兼1
		ラテン語入門1		1					○							兼1
ラテン語入門2		1					○							兼1		
ヒンディー語 a		1					○							兼1		
ヒンディー語 b		1					○							兼1		
小計（93科目）		—	12	108	0	—			4	2	1	0	0	兼58		
学科専門科目	演習	国際文化演習Ⅰ a	1前	2				○		4	3	1				
		国際文化演習Ⅰ b	1後	2				○		4	3	1				
		国際文化演習Ⅱ a	2前	2					○	5	5	1				
		国際文化演習Ⅱ b	2後	2					○	5	5	1				
		国際文化演習Ⅲ a	3前	2					○	5	5					
		国際文化演習Ⅲ b	3後	2					○	5	5					
		国際文化演習Ⅳ a	4前	2					○	5	5					
		国際文化演習Ⅳ b	4後	2					○	5	5					
	小計（8科目）		—	16	0	0	—			5	5	1	0	0	兼0	
	概論	国際文化概論	1前	2				○		4	2	1			オムニバス	
国際言語概論		1後	2				○		3	3				オムニバス		
小計（2科目）		—	4	0	0	—			5	4	1	0	0	兼0		
講義	比較文化講義1	1・2・3・4前		2			○		1	3				オムニバス		
	比較文化講義2	1・2・3・4後		2			○		1	3				オムニバス		
	英米の文化1	2・3・4前		2			○			1				兼1 隔年開講		
	英米の文化2	2・3・4後		2			○			1				兼1 隔年開講		
	英米の文化3	1・2・3・4前		2			○							兼1		
英米の文化4	1・2・3・4後		2			○							兼1			
英米の文化5	1・2・3・4前		2			○			1				隔年開講			

教 育 課 程 等 の 概 要

(国際学部 国際文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
学 科 専 門 科 目	英米の文化6	1・2・3・4後		2		○				1					隔年開講		
	英語学概論1	1・2・3・4前		2		○			1								
	英語学概論2	1・2・3・4後		2		○			1								
	英語のしくみ1	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	英語のしくみ2	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	ヨーロッパの文化1	1・2前		2		○									兼2		
	ヨーロッパの文化2	1・2後		2		○									兼1		
	東アジアの文化1	1・2前		2		○									兼1		
	東アジアの文化2	1・2前		2		○									兼1		
	日本ポップカルチャー論	3・4後		2		○									兼1		
	国際文化特殊講義1	2・3後		2		○									兼2		
	国際文化特殊講義2	2・3後		2		○									兼1		
	国際文化特殊講義3	2・3後		2		○			1								
	国際文化特殊講義4	2・3後		2		○									兼1		
	国際文化特殊講義5	2・3後		2		○									兼1		
	国際文化特殊講義6	2・3後		2		○			1								
	アメリカ文学講義1	2・3・4前		2		○				1					隔年開講		
	アメリカ文学講義2	2・3・4後		2		○				1					隔年開講		
	イギリス文学講義1	2・3・4前		2		○				1					隔年開講		
	イギリス文学講義2	2・3・4後		2		○				1					隔年開講		
	英文学概論1	1・2・3・4前		2		○				1							
	英文学概論2	1・2・3・4後		2		○				1							
	ドイツ文学講義1	3・4前		2		○				1					隔年開講		
	ドイツ文学講義2	3・4前		2		○				1					隔年開講		
	越境するアジアの文化1	3・4前		2		○			1						隔年開講		
	越境するアジアの文化2	3・4前		2		○								兼1	隔年開講		
	現代朝鮮半島事情	1・2・3・4後		2		○				1							
	世界の宗教と文化	2・3・4後		2		○				2		1			兼2 オムニバス		
	西洋史講義1	2・3・4前		2		○									兼1		
	西洋史講義2	2・3・4後		2		○									兼1		
	フランス文学講義1	3・4後		2		○				1					隔年開講		
	フランス文学講義2	3・4後		2		○				1					隔年開講		
	京都の歴史と文化	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	グローバル・ボランティア論	1前		2		○									兼1		
	国際関係論1	3・4前		2		○									兼1		
	国際関係論2	3・4後		2		○									兼1		
	キリスト教学1	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	キリスト教学2	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	小計(45科目)		—	0	90	0	—	—	—	5	5	1	0	0	兼19		
	実 践 研 究	A	英語基礎演習 a	1前	2			○			1					兼5	
			英語基礎演習 b	1後	2			○			1					兼5	
		B	実践文化演習 a (フィールドラーニング)	2後		2			○							兼1	集中
			実践文化演習 b (語学集中 ドイツ語)	2後		2			○							兼1	集中
			実践文化演習 c (語学集中 フランス語)	2後		2			○							兼1	集中
			実践文化演習 d (語学集中 中国語)	2後		2			○							兼1	集中
実践文化演習 e (語学集中 韓国・朝鮮語)			2後		2			○		1						集中	
実践文化演習 f (カナダ語学研修)			2後		4			○		1	3					集中	
実践文化演習 g (中国語学研修1)			2後		4			○							兼1	集中	
実践文化演習 h (中国語学研修2)			2後		4			○		1						集中	
実践文化演習 i (韓国語学研修)			2後		4			○		1						集中	
実践文化演習 j (ヨーロッパ文化研修)			2後		2			○		1	1					集中	
実践文化演習 k (インド文化研修)			2後		2			○							兼1	集中	
実践文化演習 l (中国文化研修)			2後		2			○							兼1	集中	
English Workshop & Camp			2・3前		2			○			1						

教 育 課 程 等 の 概 要

(国際学部 国際文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
学 科 専 門 科 目	B	English Workshop 2		2			○			1					
		English Workshop 3	2・3・4前	2			○			1					
		English Workshop 4	2・3・4後	2			○				1				
	C	Pop Culture in English 1	2・3前		2			○			1				
		Pop Culture in English 2	2・3後		2			○			1				
		World News	2・3前		2			○							兼1
		Global Communication	2・3後		2			○							兼1
		Teaching English to Children 1	2・3前		2			○							兼1
		Teaching English to Children 2	2・3後		2			○							兼1
		言語文化演習 (英語) 1	3・4前		2			○							兼2
		言語文化演習 (英語) 2	3・4後		2			○							兼2
		言語文化演習 (ドイツ語) 1	3・4前		2			○							兼1
		言語文化演習 (ドイツ語) 2	3・4後		2			○							兼1
		言語文化演習 (フランス語) 1	3・4前		2			○		1					
		言語文化演習 (フランス語) 2	3・4後		2			○		1					
		言語文化演習 (中国語) 1	3・4前		2			○							兼1
		言語文化演習 (中国語) 2	3・4後		2			○							兼1
		言語文化演習 (韓国・朝鮮語) 1	3・4前		2			○							兼1
		言語文化演習 (韓国・朝鮮語) 2	3・4後		2			○							兼1
		表現文化演習1	2・3・4前		2			○							兼1
		表現文化演習2	2・3・4後		2			○							兼1
		西洋史文献を読む1	2・3・4前		2			○							兼1
		西洋史文献を読む2	2・3・4後		2			○							兼1
	小計 (38科目)		—	4	80	0	—			4	5	0	0	0	兼19
	卒業研究	卒業研究	4通	8				○		5	5				
	小計 (1科目)		—	8	0	0	—			5	5				
	現 代 総 合 科 目	キ ャ リ ア 形 成 系 科 目	キャリアデザイン概論1	1・2・3・4前	2			○							兼1
			キャリアデザイン概論2	1・2・3・4後	2			○							兼1
			キャリアデザイン実践1	2・3・4後	2			○							兼1
			キャリアデザイン実践2	3・4前	2			○							兼1
			インターンシップ1 大学コンソ京都	2・3後	2				○		1				集中
			インターンシップ2 大谷大学	1・2・3・4後	2				○						兼1 集中
			フィールドワーク特殊演習 (PBL)	1・2・3・4後	2				○						兼1
			思考法入門	1・2・3・4後	2				○						兼1
			日本国憲法1	1・2・3・4前	2				○						兼1
			日本国憲法2	1・2・3・4後	2				○						兼1
			日本国憲法3	1・2・3・4前	2				○						兼1
			青年と社会教育	2・3・4前	2				○						兼1
社会福祉と社会教育			2・3・4後	2				○						兼1	
ポルトガル語圏のくらしと言葉1			1・2・3・4前	2				○						兼1	
ポルトガル語圏のくらしと言葉2			1・2・3・4後	2				○						兼1	
情報メディアと社会			1・2・3・4前	2				○						兼1	
ワード・プロセッシング入門			1・2・3・4前	2					○					兼1	
ワード・プロセッシング応用			1・2・3・4後	2					○					兼1	
PC利用による表計算入門			1・2・3・4前	2					○					兼1	
PC利用による表計算応用			1・2・3・4後	2					○					兼1	
PC利用によるプレゼンテーション			1・2・3・4後	2					○					兼1	
PC利用によるレポート・論文技法			1・2・3・4前	2					○					兼1	
画像処理入門			1・2・3・4前	2					○					兼1	
画像処理応用	1・2・3・4後	2					○					兼1			
PCミュージック入門	1・2・3・4前	2					○					兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(国際学部 国際文化学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
キャリア形成系科目	PCミュージック応用	1・2・3・4後		2				○								兼1
	Webサイト構築入門	1・2・3・4前		2				○								兼1
	Webサイト構築応用	1・2・3・4後		2				○								兼1
	日本語表現(入門)1	1・2前		2				○								兼1
	日本語表現(入門)2	1・2後		2				○								兼1
	日本語表現(実践)	2・3・4前		2				○		1						兼1
	発想から表現へ	1・2・3・4後		2				○								兼1
小計(32科目)		—	0	64	0	—			1	1	0	0	0		兼14	
現代総合科目 自然生命系科目	自然と生物の科学	1・2・3・4後		2				○								兼1
	地震と火山1	1・2・3・4前		2				○								兼1
	地震と火山2	1・2・3・4後		2				○								兼1
	地球科学1	1・2・3・4前		2				○								兼1
	地球科学2	1・2・3・4後		2				○								兼1
	惑星科学	1・2・3・4前		2				○								兼1
	地球環境と生命の共進化	1・2・3・4後		2				○								兼1
	生命のしくみと多様性	1・2・3・4前		2				○								兼1
	化石の科学	1・2・3・4前		2				○								兼1
	星の世界	1・2・3・4後		2				○								兼1
	こころの科学	1・2・3・4前		2				○								兼1
	人間理解の心理学	1・2・3・4後		2				○								兼1
	人間関係の心理学1	1・2・3・4前		2				○								兼1
	人間関係の心理学2	1・2・3・4後		2				○								兼1
	コミュニケーションの心理学	1・2・3・4前		2				○								兼1
	健康心理学	1・2・3・4前		2				○								兼1
	心理療法概論	2・3・4前		2				○								兼1
	心理療法と教育	2・3・4後		2				○								兼1
	行動の科学1	1・2・3・4前		2				○								兼1
	行動の科学2	1・2・3・4後		2				○								兼1
	脳とこころ	1・2・3・4前		2				○								兼1
	カウンセリング	2・3・4後		2				○								兼1
	障害者・病者と共に生きる	1・2・3・4前		2				○								兼1
	スポーツと健康の科学1	1・2・3・4前		2				○								兼1
	スポーツと健康の科学2	1・2・3・4後		2				○								兼1
	人間関係と身体表現	1・2・3・4前		2				○								兼1
	生涯スポーツ・レクリエーション活動	1・2・3・4前		2				○								兼1
	障害者スポーツ論	1・2・3・4後		2				○								兼1
	スポーツ研究演習I	2・3・4前		2					○							兼1
	スポーツ研究演習II	2・3・4後		2					○							兼1
	障害者スポーツ研究演習I	2・3・4前		2					○							兼1
	障害者スポーツ研究演習II	2・3・4後		2					○							兼1
	身体活動I	1・2・3・4前		1						○						兼2
身体活動II	1・2・3・4後		1						○						兼2	
身体活動I(障害者スポーツ)	1・2・3・4前		1						○						兼1	
身体活動II(障害者スポーツ)	1・2・3・4後		1						○						兼1	
小計(36科目)		—	0	68	0	—			0	0	0	0	0		兼19	
歴史文化系科目	ドイツの歴史と文学	1・2・3・4前		2				○								兼1
	中国の歴史と文学	1・2・3・4前		2				○								兼1
	現代東南アジア事情	1・2・3・4後		2				○								兼1
	漢字の世界	1・2・3・4後		2				○								兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

(国際学部 国際文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
現代総合科目 歴史文化系科目	近代日本とアジア	1・2・3・4後		2		○									兼1
	古都の歴史と文化	1・2・3・4前		2		○									兼1
	教育学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	教育学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	ドイツの言語文化	1・2・3・4後		2		○									兼1
	ドイツの民衆文化	1・2・3・4前		2		○									兼1
	フランスの言語文化	1・2・3・4前		2		○									兼1
	フランスの民衆文化	1・2・3・4前		2		○									兼1
	中国の言語文化	1・2・3・4前		2		○			1						兼1
	中国の民衆文化	1・2・3・4後		2		○									兼1
	チベットを見た日本人たち	1・2・3・4後		2		○									兼1
	朝鮮半島の美術	1・2・3・4前		2		○			1						兼1
	東南アジアの宗教文化	1・2・3・4前		2		○									兼1
	インドの神々	1・2・3・4前		2		○									兼1
	東アジアの宗教文化	1・2・3・4後		2		○									兼1
	仏教と美術	1・2・3・4後		2		○									兼1 集中
	人と文化	2・3・4後		2		○									兼1
	人と宗教	1・2・3・4前		2		○									兼1
	芸術表現	1・2・3・4前		2			○								兼1
	ブッダに学ぶ	1・2・3・4前		2		○									兼1 集中
	親鸞に学ぶ	1・2・3・4後		2		○									兼1 集中
	仏教福祉論	1・2・3・4後		2		○									兼1
	部落差別と大谷派教団1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	部落差別と大谷派教団2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	部落差別と浄土真宗1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	部落差別と浄土真宗2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	部落史論1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	部落史論2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	反カースト運動論	1・2・3・4後		2		○									兼1
	アイヌ民族と共に	1・2・3・4後		2		○									兼1
	アジア侵略と宗教	1・2・3・4後		2		○									兼1
	非戦の系譜	1・2・3・4前		2		○									兼1
	小計 (36科目)		—	0	72	0	—			2	0	0	0	0	兼26
	合計 (291 科目)		—	44	482	0	—			5	5	1	0	0	兼121
	学位又は称号		学士	学位又は学科の分野			文学関係								
	卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p><英語コミュニケーション履修コース></p> <p>①共通基礎科目30単位以上（人間学Ⅰ・Ⅱ8単位、大学導入科目2単位、必修外国語Ⅰ8単位、必修外国語Ⅱ4単位、選択外国語8単位以上）を履修。</p> <p>※必修外国語Ⅰについては、英語Ⅰ（4単位）、ドイツ語Ⅰ、フランス語Ⅰ、中国語Ⅰ、韓国・朝鮮語Ⅰの中から研究テーマや興味関心から導かれる地域の外国語を4単位選択し履修する</p> <p>※必修外国語Ⅱについては、英語Ⅱ、ドイツ語Ⅱ、フランス語Ⅱ、中国語Ⅱ、韓国・朝鮮語Ⅱの中から研究テーマや興味関心から導かれる地域の外国語（4単位）を選択し履修する</p> <p>※選択外国語については、中・上級の外国語学習を行うためのための科目や、第三外国語の修得を目指す学生のための科目を配置し、学生の興味・関心により8単位以上を履修する</p> <p>②学科専門科目70単位以上（演習16単位、概論4単位、講義18単位以上、実践研究[A]4単位、実践研究[B]12単位以上、実践研究[C]8単位以上、卒業研究8単位）を履修。</p>						1 学年の学期区分					2期				

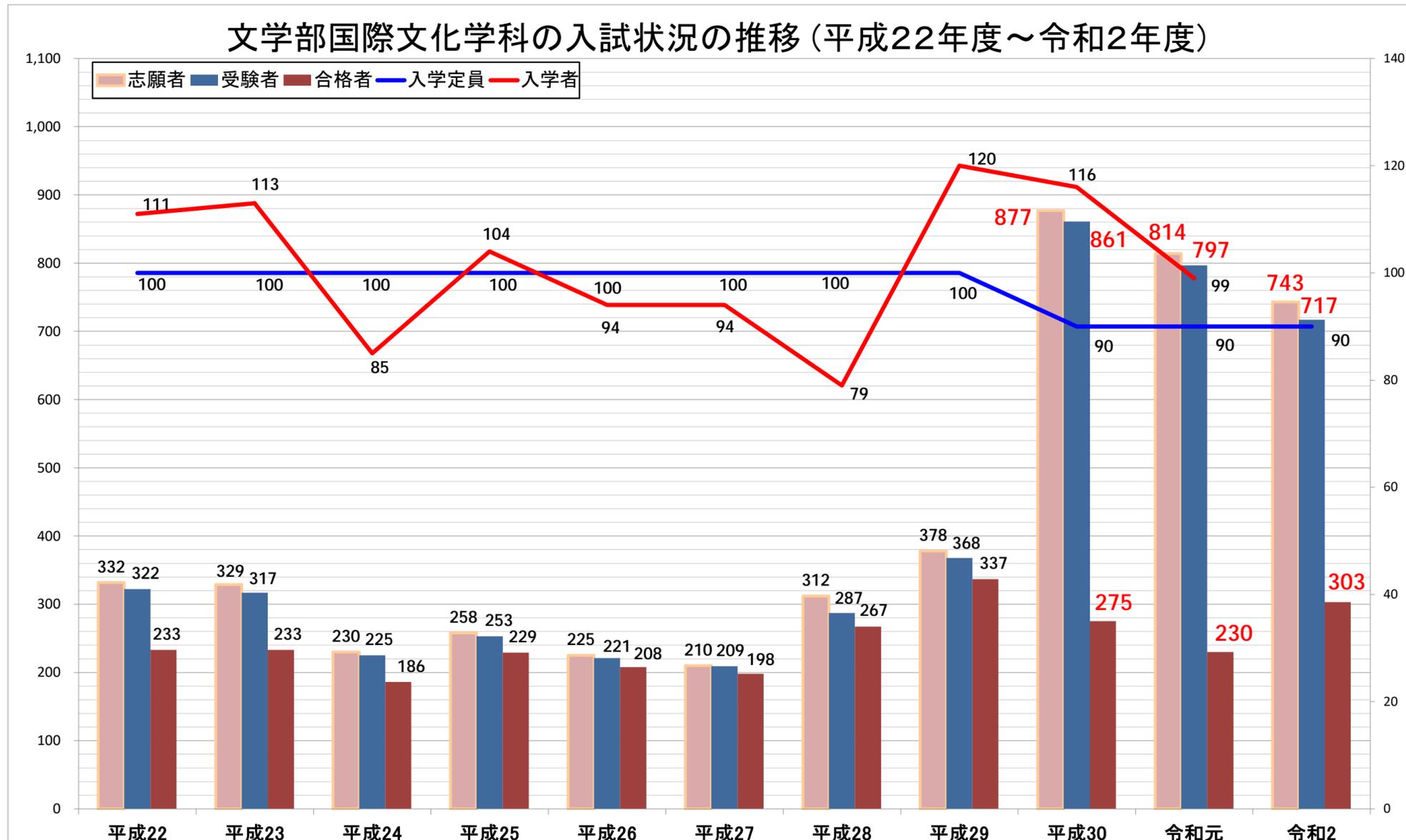
教 育 課 程 等 の 概 要

(国際学部 国際文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
<p><欧米文化・アジア文化履修コース> ①共通基礎科目24単位以上（人間学Ⅰ・Ⅱ8単位、大学導入科目2単位、必修外国語Ⅰ8単位、必修外国語Ⅱ4単位、選択外国語2単位以上）を履修。 ※必修外国語Ⅰについては、英語Ⅰ（4単位）、ドイツ語Ⅰ、フランス語Ⅰ、中国語Ⅰ、韓国・朝鮮語Ⅰの中から研究テーマや興味関心から導かれる地域の外国語を4単位選択し履修する ※必修外国語Ⅱについては、英語Ⅱ、ドイツ語Ⅱ、フランス語Ⅱ、中国語Ⅱ、韓国・朝鮮語Ⅱの中から研究テーマや興味関心から導かれる地域の外国語（4単位）を選択し履修する ※選択外国語については、中・上級の外国語学習を行うためのための科目や、第三外国語の修得を目指す学生のための科目を配置し、学生の興味・関心により2単位以上を履修する ②学科専門科目66単位以上（演習16単位、概論4単位、講義26単位以上、実践研究[A]4単位、実践研究[B]2単位以上、実践研究[C]6単位以上、卒業研究8単位）を履修。</p>													1 学期の授業期間	15週
<p><英語コミュニケーション履修コース、欧米文化・アジア文化履修コース共通> ③現代総合科目12単位以上（キャリア形成系、自然生命系、歴史文化系から各4単位以上を修得） ④自己選択科目は、他学部・他学科の「学科専門科目」を履修した単位、および他大学等において修得した単位について自己選択科目として認定する</p> <p>①～④について、指導教員の履修指導のもと、幅広く学習し、124単位以上を履修する *履修科目の登録単位数の上限は、半期24単位、年間48単位まで</p>													1 時限の授業時間	90分

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。



注:「入学者数」は未確定のため、2019年度入学者数までを表記

2020年3月25日現在

	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)
入学定員	100	100	100	100	100	100	100	100	90	90	90
入学者	111	113	85	104	94	94	79	120	116	99	未確定
入学定員超過率	1.11	1.13	0.85	1.04	0.94	0.94	0.79	1.20	1.29	1.10	未確定

【資料3】

新学部設置前後の学部・学科ごとの志願者数と志願倍率の推移

学部・学科 (2017年度)	入学定員	平成28(2016)年度		平成29(2017)年度		学部・学科 (2018年度以降)	入学定員	平成30(2018)年度			令和元(2019)年度			令和2(2020)年度				
		志願者数	志願倍率	志願者数	志願倍率			志願者数	対29年比	志願倍率	志願者数	対29年比	志願倍率	志願者数	対29年比	志願倍率		
文学部	真宗学科	70	106	1.5	119	1.7	文学部	真宗学科	60	153	1.29	2.6	200	1.68	3.3	223	1.87	3.7
	仏教学科	25	44	1.8	67	2.7		仏教学科	25	99	1.48	4.0	109	1.63	4.4	151	2.25	6.0
	哲学科	60	167	2.8	162	2.7		哲学科	50	421	2.60	8.4	514	3.17	10.3	487	3.01	9.7
	歴史学科	100	537	5.4	531	5.3		歴史学科	100	893	1.68	8.9	1,021	1.92	10.2	1,007	1.90	10.1
	文学科	70	420	6.0	442	6.3		文学科	70	739	1.67	10.6	903	2.04	12.9	834	1.89	11.9
	国際文化学科	100	312	3.1	378	3.8		国際文化学科	90	877	2.32	9.7	814	2.15	9.0	743	1.97	8.3
	社会学科	120	627	5.2	624	5.2	社会学部	現代社会学科	120	1,466	2.35	12.2	1,368	2.19	11.4	1,432	2.29	11.9
	人文情報学科	100	247	2.5	288	2.9		コミュニティデザイン学科	100	767	2.66	7.7	979	3.40	9.8	1,009	3.50	10.1
	教育・心理学科	100	542	5.4	625	6.3	学教部	教育学科	130	1,088	1.74	8.4	1,309	2.09	10.1	1,220	1.95	9.4
大学計	745	3,002	4.0	3,236	4.3	大学計	745	6,503	2.01	8.7	7,217	2.23	9.7	7,106	2.20	9.5		

文学部国際文化学科 一般入試制度の志願者数等の推移

【募集人員・志願者数・志願倍率の推移】

一般入試[第1期]

学 科	募集人員				志 願 者 数				志 願 倍 率			
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
国際文化学科	30	24	24	24	113	328	343	258	3.8	<u>13.7</u>	<u>14.3</u>	<u>10.8</u>

一般入試[第2期]

学 科	募集人員				志 願 者 数				志 願 倍 率			
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
国際文化学科	4	4	5	5	14	42	51	42	3.5	<u>10.5</u>	<u>10.2</u>	<u>8.4</u>

一般入試[第3期]

学 科	募集人員				志 願 者 数				志 願 倍 率			
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
国際文化学科	4	4	7	7	50	144	42	68	<u>12.5</u>	<u>36.0</u>	6.0	<u>9.7</u>

慶聞館

K Y O M O N K A N

【典拠】

親鸞『教行信証』総序

斯以慶所聞、嘆所獲矣。

(ここをもって、聞くところを慶び、獲るところを嘆ずるなりと。)

自ら創る
「学び」の
かたち

伝統を、
社会に開き、
未来へつなぐ

多様な教育空間を表現し、
主体的な学びをサポートします。

大谷  大学



キャンパス整備の 理念・コンセプト

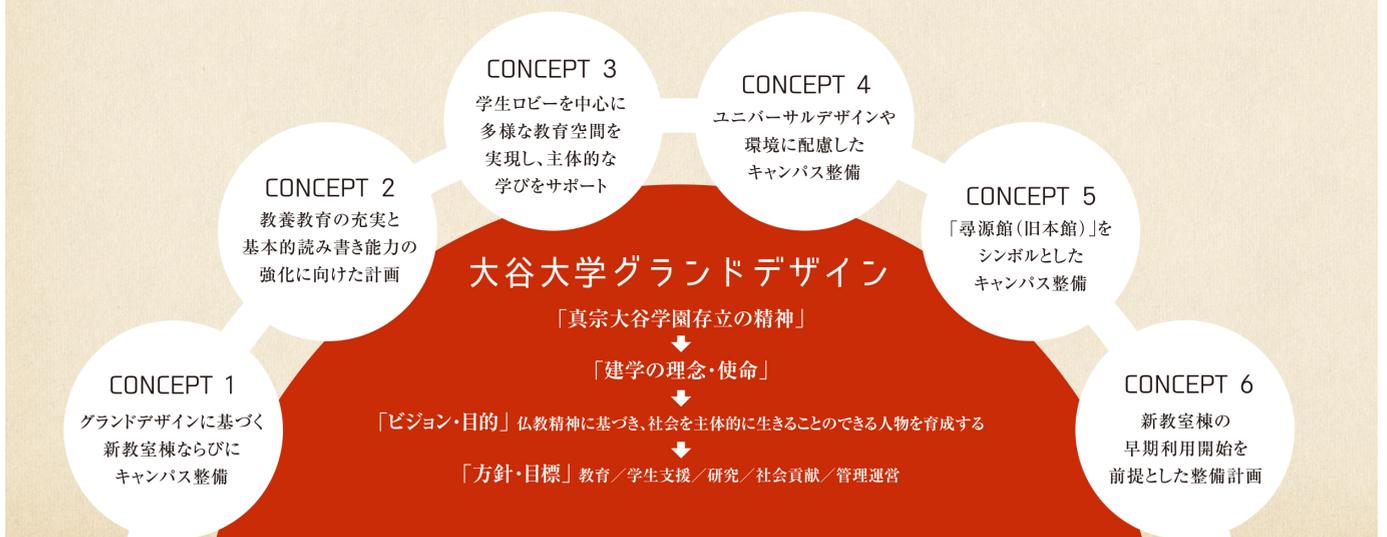


自ら創る「学び」のかたち — 伝統を、社会に開き、未来へつなぐ —

本学は、教育・研究力のより一層の充実を図り、学生が主体的に学ぶことができる新しい環境づくりを目指して、2018年完成を目標に、新教室棟の建築を含めた本部キャンパスの総合整備に着手しました。これは、2014年に築53年となる既存の研究室棟（開思館）・事務室棟（至誠館）や2015年に築50年となる教室棟（1号館旧館部分）等の建て替えという、長期整備計画に基づく取り組みではありますが、本学の伝統を踏まえつつ、未来を見据えた新たな本学を創造する事業として計画しました。新しい本学については、すでに2011年に、その構想を表した「大谷大学グランドデザイン」が発表されています。そこでは、初代学長清沢満之と第3代学長佐々木月樵によって示された建学の理念をもとに、大谷大学を「仏教を基盤として、人間の真の立脚地を問う」大学であると確認しています。その上で、教育のビジョンを「仏教精神に基づき、社会を主体的に生きることのできる人物を養成する」ものとして示しています。この度の新教室棟建設及びキャンパス整備計画は、長期的な大学運営構想に立った計画ではありますが、具体的には「グランドデザイン」に示された5つの基本方針を総合的に実現するための取り組みであります。

大谷大学グランドデザイン 5つの基本方針

[教育に関する方針] 社会に貢献し 活躍できる能力の育成	[学生支援に関する方針] 学修に専念し、 充実した学生生活を支援	[研究に関する方針] 学術交流の活性化	[社会貢献に関する方針] 幅広く社会との連携を 図る教育活動	[管理運営に関する方針] ユニバーサルデザインや環境に 十分配慮した、新たなキャンパス整備
--	--	-------------------------------	--	---





学生ロビーを中心に多様な教育空間を実現し
主体的な学びをサポート



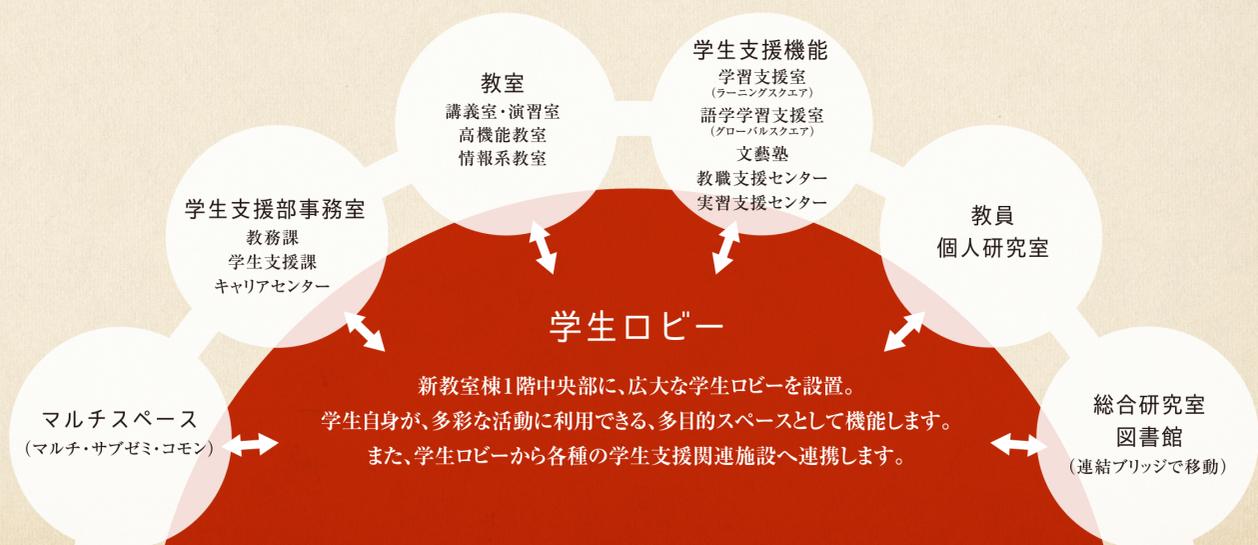
■キャリアセンター



■語学学習支援室[グローバルスクエア]



■マルチスペース



主体的な学びのサポート機能

学生の学びや活動を有機的にサポートし、アクティブラーニングも展開するなど、さまざまに活用されるスペースとしてマルチスペース(マルチ・サブゼミ・コモン)を各階に配置



1F 学生ロビー
(合計178席／屋内130席・屋外48席)



2F～5F マルチスペース

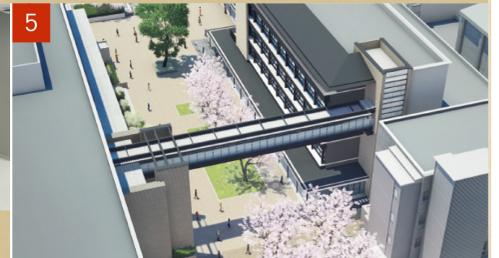
各階3カ所に設けられたマルチスペースは、大谷大学のシンボルでもある尋源館を望む空間。100年間継承されて来た建学の精神を、さらに未来につなぐ「赤レンガ」を眺めながら、学生と教員、学生同士が交流を図り、アクティブラーニングを展開するなど、さまざまに活用されるスペースです。



2F/4F サブゼミスペース[プロジェクター・ホワイトボード完備]
ユニークな視点で設置されているのが、マルチスペース(サブゼミ)。2階は3階にかけた吹き抜けも利用し、開放的な空間でお互いに刺激を受けながら利用できるスペース。ユニークなスタイルで参加できる学びの機会を創出するスペースとします。

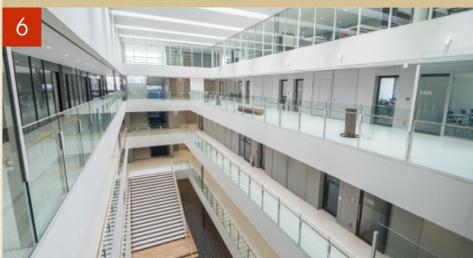


5F コモンスペース[大型モニター・ホワイトボード完備]
マルチスペース(コモン)は、グループワークやミーティングなど、アクティブラーニングへの取り組みに対応したオープンスペース。大型モニターやホワイトボードが自由に利用できるよう設計され、ラーニング・コモンズという自由な発想で、学生の自主的で活発な学びのスタイルを可能にするスペースです。



4F 響流館への連結ブリッジ

新教室棟「慶聞館」4階と、図書館・総合研究室・博物館・真宗総合研究所が配置される響流館3階との移動がスムーズに実現するブリッジです。



吹抜け[館内重力換気]

1階から5階に抜ける中央の吹き抜けは、上階につれて開口部を広くした設計とし、暖まった空気を屋外に排気する構造となっています。



4F/5F 個人研究室

教員の研究活動と学生の学びを支援するために、プライバシーと開放性を両立できるよう整備。



1F 語学学習支援室



1F 文藝塾



教室

スクール形式の授業だけでなく、多様な授業形態に対応する移動機タイプの教室を多数配置。全館のWi-FiをはじめとするLAN設備と、さまざまなデバイスを扱うAV設備が充実しています。
※教室名は4桁(K000)の番号で表記



1F 学習支援室



1F 学生支援部事務室

1階中央エントランスに広がる学生ロビーを中心に、多様な教育空間を有機的に配置し、自らの「学び」が実現するようにサポートします。

中央エリアの1F中央部には、学生自身のさまざまな活動に利用できる多目的のスペースとしての機能を備えた広大な「学生ロビー」を配置し、その周辺にキャリアセンターをはじめとする学生生活のサポートを行う事務室が設置されています。また、学生ロビーの周囲には、大学での基礎的な学習を個別に支援する「学習支援室(LEARNING SQUARE)」、留学・語学学習活動を幅広く支援する「語学学習支援室(GLOBAL SQUARE)」、学習・研究活動の基盤となる読み書きの高度な学修環境を提供する「文藝塾」を集約するなど、多彩な教育空間を実現しました。